



平成 28 年 5 月 12 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 リ ボ ミ ッ ク
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 中 村 義 一
 (コード番号：4591 東証マザーズ)
 問 合 せ 先 取 締 役 執 行 役 員 管 理 部 長 宮 崎 正 是
 TEL. 03-3440-3303

平成 29 年 3 月期事業方針と通期業績予想に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、平成 29 年 3 月期（当事業年度）の事業方針と通期業績予想、及びその開示形式の変更を決定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

1. 平成 29 年 3 月期事業方針と通期業績予想開示のポイント

自社臨床試験の実施に向けた研究開発の推進

当社は、中長期的な成長戦略として、自社開発品の中からアプタマー医薬品としての特性を最大限に活かす疾患を選び、自社で臨床試験を実施することが必要であると考えております。

臨床試験及びその申請のための GLP 試験においては、それ以前の開発段階に比べて、格段に多くの研究開発費を要し、当社損益を一時的に悪化させることが想定されます。しかし、当社が臨床開発品として選定したアプタマー医薬品が、ヒトにおいて安全性と高い治療効果を有する事実を示すことが出来れば、ライセンス・アウト時の導出価値、また当社企業価値を最大化することに直結すると確信しております。平成 28 年 3 月期において、RBM007 が臨床開発の実施を見込む希少疾病用医薬品を対象とする公的補助金に採択されたことも、当社事業の実現可能性と有用性が高く評価された結果であると考えております。

この基本理念のもと、当事業年度において当社は、自社製品の臨床試験開始のための積極的な研究開発投資を行って準備を整え、平成 30 年 3 月期中の自社臨床試験の開始を目標に研究開発を推進してまいります。

事業収益は、当社が現時点で想定する下限の数値を通期業績予想として開示

ライセンス収入及び共同研究収入は、相手先との交渉により契約条件等が定まるため、交渉過程において対価の内容及び収益計上時期等が当初の計画と大きく異なる可能性があり、予測が難しいという特徴があります。この特徴を考慮し、従前は予定したライセンス等の新規契約が全て成立した場合を業績予想の上限、年度内の成立が全くできない場合を業績予想の下限としてレンジ開示しておりました。

しかしながら、レンジ開示においても、業績変動によるステークホルダーの皆様にご与える影響が皆無ではないため、平成 29 年 3 月期の業績数値は、保守的に、収入を既存の契約に基づくものに限定し、新規契約による収入が計上できなかった場合（従前のレンジ開示の下限）における、事業計画上の数値を開示することといたしました。なお当事業年度において、当社はライセンス・アウトを実現し、さらに新規共同研究契約を締結することを重点目標としており、これらを達成し、業績を修正することを目指して、事業を展開してまいります。

2. 平成 29 年 3 月期通期業績予想（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	事業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
平成 29 年 3 月期 (予想)	95	△785	△719	△720	△54.80 円
(参考)					
平成 28 年 3 月期 (実績)	121	△532	△322	△323	△24.92 円

以上